

福井新聞

ミカド開発(福井)カーボン・オフセット活動

県内初J—VER認証

森林整備 排出権、企業に販売

森林整備事業などのミカド開発(福井市福一丁)が、角実社長)が取り組むC₂O₂吸収によるカーボン・オフセットの活動が、環境省の「オフセット・クレジット(J—VER)制度」のプロジェクト認証を受けた。4月から、森林整備によって吸収したC₂O₂をクレジット

ト(排出権)として企業などに販売を始めてい。同社によると、県内企業が参加するプロジェクトが認証を受けるのは初めて。

インク会社、グリーンブラス(東京)が京都、和歌山で実施した共同事業。ミカド開発は2009、10年度に京都と和歌山の生産森林組合からの委託で、効率的にC₂O₂を吸収するため人工林の伐採などを実施した。そこで吸収した分をクレジットとして発行、売却する。

同プロジェクトで算定したC₂O₂吸収量は2年間分で計386・26ト。カーボン・オフセットフォラム事務局(東京)によると、1ト当たりの相場は1万円前後で推移しているという。クレジットは現地企業に購入してもらうケースが多く、現在京都の企業などと交渉

J—VER制度 温室効果ガスの排出、吸収活動に取り組むプロジェクト事業者が排出量や吸収量をクレジット(J—VER)として発行し、企業などがこのクレジットを購入することで努力しても削減できないC₂O₂排出量を相殺できる制度。2008年に環境省が創

業などがこのクレジットを購入することで努力しても削減できないC₂O₂排出量を相殺できる制度。2008年に環境省が創設した。

ト(排出権)として企業などに販売を始めてい。同社によると、県内企業が参加するプロジェクトが認証を受けるのは初めて。

本日の自然遺産—京丹波の名水と熊野の森を守るC₂O₂森林吸収プロジェクトで、環境コンサルテ

同プロジェクトで算定したC₂O₂吸収量は2年間分で計386・26ト。カーボン・オフセットフォラム事務局(東京)によると、1ト当たりの相場は1万円前後で推移しているという。クレジットは現地企業に購入してもらうケースが多く、現在京都の企業などと交渉

同社プロジェクト担当者の角裕樹さんは「地球環境の保全に向けて、企業としてできる限りのことに取り組んでいきたい」と話している。